莊保

れば商ひの店多し、又販食人拍戸も見ゆる、

〔吾妻鏡二〕治承五年○養和元年九月七日庚辰、從五位下藤原俊綱字足利太郎者、武藏守秀郷朝臣後胤、鎮守府將軍兼阿波守兼光六代孫、散位家綱男也、領掌數千町、爲郡內棟梁也、而去仁安年中、依或女姓之凶害、得替下野國足利庄領主職、仍平家小松內府、賜此所於新田冠者義重之間、俊綱令上洛、愁申之時被返畢、

〔鎌倉大草紙〕成氏も以專使京都へ申されけるは、憲忠事不儀逆心の間、無據退治いたす所也、京都へ奉對、毛頭不儀を不存、京方の御領分一所もいろひをなし不申、殊に足利の庄は御名字の地にて候間、御代官を被下可有御成敗之旨、再三被申上けり、

〔集古文書十六判物〕足利滿兼判物下野國足利郡鑁阿寺藏

足利庄鑁阿寺造營材木事、當庄幷佐野庄上州所□不除寺社領、可被採用狀如件、

應永十二年四月二十三日

法樂寺長老

〔集古文書四十八感狀〕慈昭院義政公感狀

今度足利庄內赤見城發向事、相談長尾左衞門尉則時、攻落之條尤神妙、彌可抽戰功候也、

五月卅日

横瀨信濃守どのへ

〔集古文書三十五禁制狀〕鑁阿寺制札下野國足利郡金剛山鑁阿寺藏

禁制

右於足利庄鑁阿寺々中軍勢甲乙人等、不可致濫妨狼藉、若有違犯之輩者、可被處罪科狀如件、

文明四年六月　日

左衞門尉花押